

## 「東京の観光振興を考える有識者会議」による現地視察

平成 29 年 6 月 19 日

### 【坂本観光部長】

お疲れさまでございました。

それでは、これより知事と委員の皆様との意見交換の時間に入らせていただきます。

改めまして、本日はご多忙の中、視察にご参加を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。私は、事務局を務めさせていただきます東京都産業労働局観光部長の坂本でございます。議事に入りますまでの間、進行役を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。以降、着座にて説明のほうを続けさせていただきます。

初めに、お手元にお配りしてございます資料の確認をさせていただきます。

お手元には、議事次第、座席表、資料 1 の委員名簿のほか、本保座長からご提出のありました京都ユニークベニューガイドの抜粋と、二条城 MICE プランのパンフレット、こちらのほうをお配りしてございます。

資料 2 から資料 4 につきましては、卓上のタブレット端末でご覧をいただくこととなります。よろしく願いいたします。

本日の出席者の方につきましては、座席表の配付をもってかえさせていただきます。

それでは、この後の議事進行につきましては、本保座長にお願いしたいと思います。何とぞよろしく願いいたします。

### 【本保座長】

どうも改めまして、おはようございます。

まず、知事に、素晴らしい展示にご案内いただきましたこと、御礼を申し上げます。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

審議の前に、知事のご挨拶をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

### 【小池知事】

皆様、おはようございます。

今日はお忙しい中、また朝の早い時間からの視察にご参加いただきまして、ありがとうございます。

今日は観光面でのユニークベニューの活性化ということで、現場に来ていただいて、そしてご議論いただこうという、こういう趣旨でございます。

今、館内を視察させていただきながら、ユニークベニューとしての利用の方

法についていろいろ説明があったかと思います。

そして、改めて、こういう既にあるユニークな会場をいかにして活用していくことによって、東京の素晴らしさを知ってもらったり、海外の方にも来てもらったりということで、活かしていきたいと思います。

私も海外に参りますと、スミソニアン博物館の一角でパーティーをやったり、それから、ノルウェーのオスロの市役所のホール、そこがノーベル平和賞の授賞式になったりと、とてもパブリックをうまく活用していますので、これまでは5時になると閉館という形が多かったんですが、むしろもっとあり物を活用するというのが一つ、MICE などの誘致にも有効ではないかと考えております。今年度から、この東京都美術館、そして浜離宮、都の庁舎そのもの、ユニークなベニューの施設としての PR をいたしまして、積極的な活用を進めていきたいと考えております。

それから、民間でもユニークベニューが幾つか、面白いところもございますので、そういったものをコラボレーションして、世界にも、また国内的にも使えるようにしていきたい、このように思っております。美術館、それから庭園、MICE など、会議やイベント、レセプションの会場として活用していただいて、施設の PR や、そのステータスを高めていくことができると考えております。

今日はこの現場で、緑を楽しみながら、皆様方の活発なご意見を拝聴できればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

#### **【本保座長】**

知事、どうもありがとうございました。

それでは、意見交換に入りたいと思いますが、まず事務局の資料説明からよろしく願いいたします。

#### **【坂本観光部長】**

かしこまりました。

それでは、事務局のほうからは、ユニークベニューの利用促進に向けた東京都の取組ということでご説明のほうをさせていただきたいと思っております。

最初に、まずそもそもユニークベニューとはということなんですが、やはり歴史と伝統のある建物や芸術文化に触れることのできる施設などで、会議やイベント、さらにはレセプションなどを特別感、こういったものを演出しながら開催できる会場のことをユニークベニューと言っております。

使い方によっては、レセプションなどを開くことそのものをユニークベニューという言い方をする場合もあるんですけれども、今回はこの会場をユニークベニューというふうに称させていただければと思っております。

こうした中で、東京都における取組の内容でございますが、今年度から都内にある宝物になるわけですけれども、さまざまな施設、こちらに関する情報の

発信に取り組んでございます。一番代表的な取組といたしましては、ユニークベニューとして利用する施設、これを紹介する PR の冊子を作りました。本日、ペーパーレスですので、このタブレット端末の中にその一連のものが入ってございます。後ほどどこかでご参照いただければ幸いです。

冊子としては 2 冊に分かれておりまして、1 つが都立の 8 施設、この東京都美術館も含まれております。もう一つが民間などでの施設ということで、こちらは 14 ほど紹介させていただいております、この 2 種類です。冊子としては、やはり日本語だけではだめなので、英語も必要なんですけれども、日本語と英語が別々に分かれていると、なかなか冊子も分厚くなりますので、1 冊にコンパクトに合本という形でまとめてあります。そして写真をかなり多用いたしまして、まずイメージをきっちり理解していただいて、これを使っていこう、と。そういう形のインセンティブにというふうに思っております。

この冊子につきましては、外資系の企業や国内の大手の上場企業、さらには旅行会社、在日の大使館、こういったところに幅広く配布をいたしまして、MICE の誘致活動に結びつけると、そういった形で配布をしたというところがございます。

それ以外の施策といたしましては、利用者が実際に MICE で会場の設営をする場合にいろいろ物入りになります。お金がかかります。こういうユニークベニューを利用する企業、国際会議、こういったものが会場設営をする場合に会社さんにいろいろ委託をしますけれども、この委託の経費に対して経費を補助いたしますので、主催者側の負担が軽くなるという形になります。

具体的には、補助の対象となりますのは、こうしたテーブルとか椅子のような什器類ですとか、会場で必ず使う音響とか照明の機材、こういったものが対象になります。

金額的には 500 万円までを上限といたしまして、総経費の 2 分の 1、ですので、1,000 万円ぐらいまでかかるということであればその 2 分の 1 ですので、500 万円まではお手伝いができるというような、こういうような取組をいたしまして、主催者側の経費面での負担を軽くすることをやっております。

支援の実績なんですけれども、29 年度から公募でこういった設営を希望される色々な団体さんを募っております。

その結果としては、国際会議で迎賓館を 5 月 11 日に使っていただくような、そういったお手伝いもいたしましたし、外資系のコンサルタント会社が日本科学未来館や、芝にあります増上寺、こちらを 5 月に使うという形でお手伝いをさせていただいております。

さらには 28 年度までの実績としましては、同じように日本科学未来館や、これも品川の泉岳寺ですとか、下町に行きますと両国の国技館、さらには神田神社、こういったところでのユニークベニューの支援をしたと、こういう実績

が上がっております、これからますますご利用をお手伝いできればと、このように考えているところでございます。

事務局からの説明は、以上でございます。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、ユニークベニューの施設を管理されている部署である生活文化局のほうから、資料の説明をお願いしたいと思います。

#### 【鈴木文化施設担当部長】

生活文化局の鈴木と申します。

私からは、都立の美術館、博物館でのユニークベニューの取組についてご紹介させていただきます。

現在、都立の美術館、博物館では4施設でユニークベニューを開始したところでございます。

まず1つ目、東京都庭園美術館でございます。

庭園美術館の建物は1933年に朝香宮邸として建てられ、当時、ヨーロッパで流行したアールデコ様式をほぼ完全な形で現在に伝えております。2015年には国の重要文化財に指定されたところでございます。

この歴史的建造物と美術作品の鑑賞、また緑豊かな庭園を同時に楽しむことができる、他に類のない美術館でございます。

この庭園美術館におけるユニークベニューの活用としましては、例えばアールデコ様式の建物と、その中で開かれる展覧会を貸し切りで鑑賞した後、庭園を臨むガラス張りの新館ロビー、現在モニターに映っておりますが、新館ロビーやテラス、前庭などで、立食であれば80名程度のレセプションやパーティーを開催することが可能でございます。

また、このパーティーの合間に日本庭園の散策もすることができ、訪れた人々は、非日常、特別感を味わうことができるかと考えております。

なお、現在、改修工事中でございます、本年11月中旬以降にまたリニューアルオープンする予定でございます。

続きまして、東京都写真美術館でございます。

この写真美術館は昨年9月にリニューアルオープンした、世界でも数少ない写真と映像の専門美術館でございます。恵比寿ガーデンプレイス内に立地してございます。

国際的な視野に立って企画した芸術性、文化性の高い展覧会を開催しており、このユニークベニューの活用としましては、写真、映像に関する展覧会をやはり貸し切りで観覧した後、ガラスで囲まれた吹き抜けの2階ロビーにおいて、立食であれば80名程度のレセプションやパーティーを開催することが可能でございます。当館を訪れた人々は、この創造的な雰囲気を楽しむことができる

かと考えております。

3つ目でございます。江戸東京たてもの園でございます。

このたてもの園は、江戸時代前期から昭和にかけての歴史的、文化的価値の高い建造物を移築し、復元した野外の博物館でございます。多摩地域にございます都立の小金井公園の豊かな緑に囲まれながら、江戸や東京の貴重かつ懐かしい建物が点在してございます。

このたてもの園におけるユニークベニユーの活用でございますが、園入口から、例えば前川國男邸を初めとしたさまざまな個性的な建物が、復元、展示されている通りを散策していただきまして、その後、今、モニターに映ってございます明治時代の洋館、デ・ラランデ邸のアンティークなカフェやテラスで、立食であれば、70名程度のパーティーを開くことができるものでございます。非日常的な空間をここでも味わっていただけるものと考えております。

そして、最後、本日ご視察を頂戴しています東京都美術館でございます。

本日もご覧いただいておりますので詳細は割愛いたしますが、日本のモダニズム建築の巨匠、前川國男により設計されたこの東京都美術館の建物の独特な雰囲気、この中で、ユニークベニユーの活用としましては、例えば先ほどご覧いただきました講堂での発表会や授賞式、その後、こちらのレストランで立食であれば、こちら200名規模入るスペースがございますので、そうしたパーティーを開催していただくことができるかと考えております。

このように、私ども生活文化局としましては、各施設の本来の目的、これを前提としながら、それぞれの特性に応じていろんな特別感や非日常性を演出させていただきまして、ユニークベニユーの取組を今後進めていきたいと考えてございます。こうした取組を通じまして、各施設の魅力を広くPRさせていただくとともに、得られた収入の一部は施設の魅力向上にも活用していきたいと考えております。

現在、4施設でやっておりますが、現在改修中、もしくは今後改修予定の現代美術館であるとか、江戸東京博物館につきましても、来年度以降、順次準備でき次第、ユニークベニユーの取組を開始していきたいと考えております。

以上でございます。

#### **【本保座長】**

どうもありがとうございました。

では続きまして、建設局からご説明をお願いいたします。

#### **【日浦公園緑地部長】**

建設局の公園緑地部長の日浦でございます。

建設局が所管いたします3施設をご紹介させていただきます。

初めに、浜離宮恩賜庭園でございます。

浜離宮恩賜庭園は、江戸時代の代表的な大名庭園で、昭和27年には国の特

別名勝及び特別史跡に指定されました。

都内で唯一海水を導いている潮入の池、2つの鴨場、茶屋群、四季折々の美しい花が楽しめるお花畑など、多くの見どころを有しております。

伝統的な庭園美と都心の高層ビルの夜景のコントラストなど、東京でしか味わえない特別感を楽しんでいただけます。

都内の国際会議場やホテルからのアクセスもよく、外国人観光客も多く来園されます。

ユニークベニューといたしましては、通常入ることができない夜間に貸し切りでレセプションやパーティーなどを開催できます。

例えば、左下をごらんいただければ、外国人からの人気も高い三百年の松の前の広場ではオープンエアでの着席及び立食のパーティーによりまして、日本庭園の風情を存分に感じながらお食事を楽しむことができます。

また、水面に生える中島の御茶屋を初めとする御茶屋も飲食を伴うパーティー会場として活用できます。

このほか、参加者の皆様に庭園の魅力をより深く知っていただけるよう、園内のガイドツアーもご提供いたします。

さらに、ご希望があれば日本の伝統文化を感じていただけるお抹茶体験などのプログラム、お土産などのご用意も可能です。

ユニークベニューとしての活用が可能な時間帯は、閉園後の17時30分から21時30分となっております。

続きまして、清澄庭園をご紹介します。

清澄庭園は、泉水、築山、枯山水を主体にした明治時代の代表的な回遊式林泉庭園でございます。

庭園のかなめである大泉水は水面に数寄屋造りの建物、樹々の影を映し出して印象的な景観をつくり出します。

また、大泉水の周りには全国の石の産地から大小さまざまな名石が配置され、さながら石庭の観を呈しております。

ユニークベニューといたしましては、通常入ることができない閉園後に、庭園散策ですとか名石の鑑賞、会議やイベント、パーティーの利用が可能です。

ページ中央の大正記念館では、ふだんは活用できない前庭部分も一体的に使用し、ガーデンパーティなども実施していただけます。

また、東京都選定歴史的建造物に指定されている数寄屋建築の涼亭では、水面に浮かぶ風情ある空間で、広々とした池を臨みながら飲食をお楽しみいただけます。

浜離宮恩賜庭園と同様に、庭園を深く知っていただくための園内のガイドツアーや各種体験プログラムも提供いたします。

利用可能な時間は閉園後の 17 時 30 分から 21 時 30 分でございます。

最後に、葛西臨海水族園でございます。

葛西臨海水族園は、「海と人との交流の場」をテーマに建設された施設でございます。

東京湾を一望できる屋上のガラスドームが葛西臨海水族園のシンボルとなっております。

クロマグロの群泳を初め、東京湾から小笠原までの生物を展示する東京の海、北極から南極まで世界各地の生物を展示する世界の海など、約 600 種の生物を展示する日本を代表する水族館であり、年間約 150 万人の来園者でにぎわう臨海部の人気スポットとなっております。

ユニークベニューといたしましては、閉園後特別貸切で海の生物の世界を楽しんでいただいた後、広大な東京湾を臨むロケーションを堪能できる空間で 200 名規模のパーティー等を開催することができます。

例えば、ページ中央下、東京の島々の魚を鑑賞できる東京の海エリアでは、ウエルカムドリンクを楽しんだ後、ページの左上、夕暮れとともに刻一刻と変化する東京湾のダイナミックな景観を一望できるレストランやテントデッキで飲食を行いながら、ゆったりとした特別な時間をお過ごしいただけます。

お帰りの際にはパーティーの余韻もそのままに、東京の夜景もお楽しみいただけます。

参加者の皆様のためだけに、水族園の魅力や展示生物の解説を行うガイドサービスも行います。

利用可能な時間は 18 時から 22 時となっております。

なお、ユニークベニューとしての活用により得られた収益の一部は、庭園や水族園に効果的に還元し、施設のさらなる魅力向上につなげてまいります。

建設局からの説明は以上でございます。

### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

それでは、本日のテーマである都立施設のユニークベニューの活用に関する意見交換に移りたいと思います。

最初に座長が発言して恐縮ですが、ちょっと他の事例を一つ紹介させていただきたいと思います。

お手元に京都の一連の資料があるかと思います。

A4 の 1 枚紙が 1 つとパンフレットです。

A4 の 1 枚紙は今、都からご説明いただいたものとほとんど同じような内容でございますが、利用のシーンなんかが出ていてなかなかいいホームページになっていると思います。

むしろ、ご覧いただきたいのはもう一つのパンフレットでございます。

表紙をご覧いただいで分かりますように、二条城 MICE プランということで、いかにも使ってくれという形のペーパーになっているんですが、まずご覧いただきたいのは、裏表紙でございます。

裏をご覧いただきますと、作成母体が書いてありますが、京都市の文化市民局元離宮二条城事務所と、設置主体そのものがこういうものを作っているという、これはまず非常に大事なポイントだろうと思います。

開けていただきまして、図面が出ていますが、これもポイントが実は右下のほうにありまして、一つは右下の下から2つ目ですが、二条城と、それから利用される企業団体の間にコーディネーターというのが入っております。

これは、聞くところでは田川さんのところの JTB さんもこの中に入っているようですが、要するに民間が入って利用調整をしてセールスをするという仕組みをつくっていると、つまり民間活用というのがよくできていると。

それから、最後は会場概要ですが、お値段が出ているんですね。

使う人にとって、幾らで使えるかが分からなければ、いくら使えるといっても考えるよすががないわけです。

こういうものができているということで、要すれば施設を持っている側が、使っていただくための工夫をして表に出している。

東京都のガイドブック、非常によくできていて、写真も素晴らしいと思いますし、利用時間も書いてあるんですが、ある意味ではこれはお上がつくった資料で、実際の施設の側が必死になって使うという姿勢を示し、また、こういう努力をしないといけないので、施設側が自主的、主体的に取り組む工夫をやっぱり作っていかなくや、しなくやいけないなと思っております。

多分、そのためには、先ほどのご説明でも、収入の一部は施設の改善や運用に使えるということがありましたが、やはりもっと強いインセンティブが出てこない、なかなか利用というのは進まないんじゃないかなと、こう思いますが、その辺の工夫が必要だということの一つ申し上げたいと思います。

それから、例えばこの施設も大変素晴らしいですけども、実際にユニークベニューとして活用しようとしていくと、多分多少やっぱり投資も必要になるところがあって、より使いやすい施設の実現という、これをぜひ考えていく必要があるんじゃないかというのが2つ目申し上げたいことです。

それから3つ目は、実際に使おうとするといろんな障害に出会うことがよくございます。

例えば、都のご説明にあったように、生活文化局とそれから建設局が持っている。どうしても管理者側が違うと、使い方とか、あるいは物の考え方が大分違うところが出てきて、これが障害になるようなケースもありますし、先ほど知事もお外をご覧になって、このお庭を活用したらいいというお話をされていましたが、場合によっては、さらに外側の道路も一部、占用して使ったほう



が、規模によってはいい場合もあるわけですが、こういうときには道路管理者とか警察との問題もなかなか大変で解決できない、結果的につかないということもありますので、おそらくユニークベニューも都全体で民間のものも含めて活用していこうとすると、かなりハイレベルで全員が一致して動けるような仕組み、何とか推進委員会のようなもの、こういったものも必要になるんじゃないかなと、こう思うところでございます。

最後に1つ、自分が経験した事例を紹介しますが、ここも素晴らしい美術館で、食事なんかはできる施設もあるんですが、名画の前で食事ができるということがあってもいいと思うんです。オランダのデン・ハーグにマウリッツハイス美術館という、フェルメールの真珠の耳飾りの少女という絵がありますよね。あんな絵が置いてある小さな美術館なんですけど、ここに一度、その大手スポンサーに招かれたことがございまして、絵を見た後、絵画の前でテーブルセッティングして、食事ができた。これぐらいのところまでいけるぐらいの意気込みがあったらいいなということ、ちょっと申し上げたいと思います。

すみません、長くなりましたが、私からのお話は以上でございます。

それでは皆様からご意見をいただきたいと思います。

どうぞ玉井先生。

#### 【玉井委員】

大変素晴らしい施設をご案内いただき、また開放していただき、これは主催する側からすると、大変魅力的なことです。

今、本保先生のほうからもご案内がありましたが、ひとつ、運営側、使用する側からの希望ですけれども、これだけ素晴らしい施設ですと、多分使用するための許可等の手続きが、かなり難しいと思われまして、できましたら東京都さんが認定するユニークベニューに関しては窓口を1カ所にして、ある程度主催者側と調整できるコーディネーター制度のような、ワンストップ的機能をぜひ作っていただくと、より有効的かつ効率的に施設活用ができるのではないだろうか。これはなかなか難しいとは思いますが、有効に使うためにはそういうワンストップ的機能をもう少し広げて、全体で利用価値を高めるという、そういう運営体制をぜひお作りいただければと思います。

#### 【本保座長】

全くおっしゃるとおりだと思いますね。

では、アトキンソンさん。

#### 【アトキンソン委員】

二条城の例を使っていただき、ありがとうございます。私はここの特別顧問をやっておりまして、二条城の改革を考える委員会にもこの MICE も取り上げられていますので、ちょっと補足なんです。資料の使用料は 28 年 3 月の時点のものでありまして、これが改革の対象内に入っています。かなり安い価格

になっていることが問題視されていまして、多分 10 月以降、変わるようになる可能性が高いと思います。

まず、この料金は、残念ながら設定の仕方に非常に問題があります。ご覧のように、使用料は固定金額です。普通であれば、何人であれば幾ら、何人以上であれば幾らが増えるとしなければいけないんですが、そういうふうになっていけませんので、結局は業者のほうでぎゅうぎゅうに人を入れて、大きな問題を起していることもありますので、ここの部分が問題の一つになっています。

また、金額自体も安いですが。大体海外のもので比較すると、例えばイギリスであれば、ヴィクトリア・アンド・アルバートミュージアムとか、イギリスの国会も閉会した後に、そこも使えるようになってはいますが、どんなに安くても大体 100 万円から始まるというのが一般的でして、そのウエストミンスターホールだとか、そういうところは大きな食事会もできるんですけども、数百万円がとられます。

二条城の値段設定というのは、割とマスに使ってもらおうということで、あんまり MICE には使われていないということがあります。それを象徴するのが、この後ろのページなんですけれども、交通機関。アクセスはバスなら市バスを 9 号とか 50 とか、あと地下鉄だとかが書いてありますけれども、そもそも MICE を使う人というのは、余り地下鉄に乗って歩いていくとはあまり思えないので、ちょっとともとの MICE の目的と値段設定とその使い方というのは、ちょっと問題があるというところなんです。

もう一つは、これが今、文化財保護等々で学芸員さんとのやりとりもあるんですけども、二の丸御殿の台所は、飲食はバツだとか、二の丸御殿の中庭も飲食はバツになっているんですけども、これは建物の内部では何にもないのに何を根拠にしてバツにしているのかということが議論の対象になっていまして、そういういかにも学芸員がゼロリスクの考え方でやっていますので、非常に使い方としては使いづらいというところにもなっています。

ですから、二条城は割と先端的な事例ではあるんですけども、かなりの問題があることも認めざるを得ないと思います。

イギリスの国会ですとか V&A もそうなんですけれども、今のご指摘のとおり、やはり営業マンもそこで設置しているということであって、貸切ができるという案内を出すだけで終わっているのではなくて、積極的にセールスをしています。ネット予約もできるようになっています。もちろん、使用の審査は当然、出入り業者というアプルーブド・サプライヤー制度も使っていて、何でもいいというわけにもなっていないのですが、先ほどの二条城の例に比べて、自由度がかなり高いんです。

二条城の中庭を使えないとか、あそこの台所は台所なのに、今は、たたきのところしか使えなくて、内部の板張りのところは使えないとか、そうすると、

MICE に招くようなお客様にたたきの上で食事を出すとかドリンクを出すというのは、いかにも上から目線的なところで、リスクゼロの考え方ですので、そういうのはどうかと思います。この間、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムのときに、実際に御殿の中を使うことになったんです。それは改革の結果の一つです。MICE などにもそのような使い方を認めて、その分だけ値段を上げていって、その費用を建物の見張り役等々で文化的価値を担保するようなことに使って、MICE を誘致することも考えられています。

ですから、海外との競合ですから、海外の自由度が高くて、日本はそういうことをなかなか認めないということを言いつつも、それだったらシンガポールでやるよという話になっちゃいますので、座る場所ですとか、どこに何ができるかということをやより自由にして、その分だけマイナスにならないように、値段に転嫁すればいいわけですので、その考え方が非常に重要じゃないかと思います。

二条城の場合ですと、結論から言うと、安過ぎということは一番の問題で、それを変えるような動きになっています。

もう一つは、やはり海外の場合ですと、営業マンを設けたりとかネット予約だとかそういうことができるようになって、実績につながっています。ですから、文化財の現場の仕事小西美術としては、やはり国や官僚のほうで物事が決まったにもかかわらず、学芸員などが現場でその方針を潰して、何も実行されないことは多々あります。やはり営業マンも設けないと、パンフレットだけを作って施設が一回も使われないままで終わってしまうということも十分考えられますので、今のコーディネイト制度等々で、実際の実績につながるような対策のほうが必要かと思います。

長くて申し訳ないです。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

改革というか利用の仕組みを変えるために、利用者とか外部の方も入った、意見を言ったり、それを取り上げて、具体的な改善につなげていく仕組みが、京都にはあるということですね、今のお話ですと。

#### 【アトキンソン委員】

市長のもとで、二条城の今後のあり方に関しての大きな委員会が出来て、学芸員さんも、イベントのコーディネイトをする会社ですとか、京都内部、外部の関係者で、いろいろな人に入ってもらって、利用者、それで MICE の人、ホテルの人、いろいろな人を呼んで、そこで、二条城のあり方をどういうふうに変えるべきかという、その会議を作ったんです。それが去年の秋ぐらいで終わりましたが、さっき申しましたように、じゃあ決めるのはいいんですけども、具体的に何が変わったかということ、正直なところ、まだ全部が実行されて

いない。

このパンフレットがいまだにこうやって出ているということは、十分に変わっていないんですよ。

**【小池知事】**

二条城だけですか。他にもたくさんありますよね。

**【アトキンソン委員】**

他にもあります。二条城が一番積極的です。二条城は京都市の持ち物ですから、結局一番やりやすいといえればやりやすい。他は、お寺さんで多少ありますけれども、市の施設としては二条城が一番使われています。ウエディングだとかそういうこともできます。

**【本保座長】**

では、滝さん。

**【滝委員】**

企業の周年事業みたいなものは、非常に高くても普段使えない所が使えるとか、どちらかというステータスがポイントになると、私は思います。ヨーロッパの場合も、あくまでも想像ですが、美術館は採算性の問題もふまえて徹底的にやっている感じがしますよね。ですから、できるだけ高くとるのだけでも、差別感というのですかね、そうできるための工夫をしたりしている。

私は、何か二本立てが必要な気がしてしまっていて、例えば国会議事堂みたいなものはなるべく一般の皆さんに見てもらおうという意味では、料金の高いものはまずいんじゃないかと思います。けれども、企業の周年事業みたいな時には、どちらかというステータスというようなことが重視され、さっきアトキンソンさんがおっしゃったように、管理人もたくさん置かなければいけないなどいろいろな費用もあり、それらが乗っかって高くなってまったく構わないというような感じも、聞いていて思いました。

**【本保座長】**

どうもありがとうございました。

さっきオランダの例を紹介しましたが、実はその美術館はスポンサー制度をとっていて、大スポンサーが連れていってくれたものですから無理がきいたという。

おっしゃるように、企業的な要素が入ってこないとなかなか動かないという実態があると思います。

どうぞ、森川さん。

**【森川委員】**

先ほどネット予約のお話がありましたが、今、スペースマーケットという会社がございます、そちらがいろいろな国内の遊休資産の時間貸しをオンラインで仲介するような事業をっております。その中でやっぱり地域のお寺とか、

ユニークな建物とか、そういうものを安く気軽に借りられると。

それは企業も結構利用してしまっていて、多分今、海外の方が、海外から英語で予約するみたいなニーズもあるので、ここに登録されたらいいのかなということが1つと、あと、特に美術館に関しては、私が個人的に気になるのは、撮影禁止のところ結構多くて、でも海外はそうでもないのかなという印象で、やっぱりパーティーで利用する際って、必ず写真を撮るときに、作品が写るとまじいみたいなのところがどこまであるのか。

特に最近では、インスタグラムで皆さん写真をシェアして、それがプロモーションにつながるので、ぜひ一部の作品に関しては撮影もぜひオーケーにしたいだけるといいんじゃないかなと思います。

#### 【本保座長】

ありがとうございました。

田川さん、どうぞ。

#### 【田川委員】

この仕事は長くやっているんで、これまでの経験と体験からお話を少しさせてもらいたいと思いますけれども、まず、私も実は一昨年、イギリスのビッグベンの国会議事堂で、WTTCの理事会、総会をやりましたが、非常に楽しかったですね。中を自由に見せてもらって、普段見られないところまで視察しました。価格についてはわかりませんが、国会議事堂が安くなくちゃいけないことはないと思います。要は、価値観の問題です。シアトルに私どもが行ったときも、野球場のセーフコ・フィールドでパーティーをやりました。いろいろな地域やいろいろなことを考えていく必要があると思います。正直申し上げて、日本と外国を比べたときに様々なグローバルの企業がどこかの国でインセンティブのパーティーなどを検討する場合に、日本が一番やりにくいです。なぜならば彼らはユニークベニューを必ず要求してくるからです。

日本の場合には、国立博物館でツーリズム EXPO ジャパンのジャパンナイトをやりましたが、ここからお酒を持って入っちゃだめとか、いろいろなダメ出しが多い。結局、雨の中を大変な騒ぎになり実施しました。要するに規制がたくさんあって、外国の企業を日本に持ってくるときに、シンガポールでやろうかとか、イギリスでやろうかということになってしまいます。

これが多分、全世界の MICE のセールスマンが思っていることだと思います。従って、まずは日本がこういうことについてやりやすいというのを発信していく必要があります。そこで第一義的に必要なのが、やはりワンストップショッピングではないですが、映画の撮影で、フィルムオフィスというのがあって、十数年前から結構いろいろな地域で、ここで撮影するときには警察とか様々な手続きとか全部やってくれるんですね。東京にもフィルムオフィスがありますけれども、そういうユニークベニュー用のワンストップサービスが、絶対的に必

要で、窓口を作って、明確にする事が大事です。また、都市ごとにも必要な機能だと思います。フィルムオフィスも、最終的には都市ごとに全部できました。

もう一つはMICEの中で、ミーティングビジネス、インセンティブだとかコンベンションとか、イベントの種類がごちゃ混ぜになっていまして、MとIとCとEに相当差があるんですね。

例えばIMFの総会みたいな、1万人も来るようなものと、インセンティブみたいな規模でやる場合と大分違います。ユニークベニューというのは、基本的にはそういうミーティングビジネスとかインセンティブビジネスに一番有効に使われるものなので、ある意味では一番お金が出てくる世界だと思うんです。

その意味で、やはり少し分けて考えておかなきゃいけないです。先ほど二条城でデービッドさんも言っていました、やはり見せないところとか、見えるところ、さわっちゃいけない、文化財保護との関係で、常に揺り戻しなんです。基本的には全て見せるというスタンスで、それから作業をしないと、僕らが話していると、まずだめなものって先に決められるんです。できるものという中から選んでくれというんですが、全部やりたいんです。できないものを最後に減らしていくような、そういう発想は、なかなか日本の中にはないんですね。

これが外国のユニークベニューとはおおきな違いがあると思います。この辺がこれからの東京都の中で設計図を作るときに、担当者がそういうことを考える必要があるのかなと思います。

私も今日、持ってきましたが、これは我々のチェックリストなんです。警察などの手続きから運営に必要な要素などを全てをまとめたチェックリストがあるんですけども、そういうものを見て作っていくのですが、あまり見せてくれとは言われたことがありません。昨年の我々が主催するツーリズム EXPO ジャパンの「ジャパンナイト」は行幸通りを活用して屋外イベントを実施したのですが、実は行幸通りの歩道部分である中通りは借りられたんですけども、行幸通りの車道は東京都の管轄であって、知事がオーケーしないと、丸の内警察署はオーケーしないということで、調整など十分な時間がなく、許可を取ることができなりました。行幸通りはちょうど東京駅から真っすぐ行くような道なんです。最終的には中央の歩道部分だけは使えたんですけども、周りの車道は使えなくて、車がどんどん走っているところを、人を渡さなくちゃいけないので、警備のために倍ぐらいのスタッフが必要になりました。この経験から、全体をコントロールするようなワンストップサービス機能となるものがやはり必要であり、ひょっとしたらその時も許可を取ることが出来たのではないかと思います。我々も頻繁にこのようなユニークベニューや公道を使ったインセンティブイベントをやっていますので、ぜひそういう流れの中で、

我々の話も聞いていただけたら良いのではないかと思います。

以上です。

**【本保座長】**

どうもありがとうございました。

じゃ、大下さん。

**【大下委員】**

文化的な施設であったり、公園という今までアンタッチャブルといったらおかしいですが、利用がされなかった、いわゆる存在価値はあるのですけれども、利用価値のなかったものに、今回の、ちょっと言い過ぎかも知れませんが、切り込まれたという、このユニークベニューという考え方で、実に素晴らしい発想であるというふうに思うわけですね。

そのときに、特に先ほど来、出ております特別感とか優越感がその中から生まれるということは、これはものすごく付加価値のあるもので、今までやってこなかった、あるいは制限されていたということをより超えたものとして使われることによって、さまざまな展開ができるだろうというふうに思っております。

特に、浜離宮のお話を聞きまして、実は浜離宮というのは隅田川クルーズともろにつながってくるわけですね。直接的につながっておりますし、また、その先では、まだ確保はされておりませんが、羽田空港の国際線と運河を介することによって、より幅広くつながっていくということになりますと、浜離宮そのものが定常的にも多くの方々が舟運という形を通じて来ていただける。さらには、ごく限られたところでごく限られた使われ方をすることによって、より魅力を増すような使われ方になると、都立の公園そのものが非常に幅広く使われるなというふうに期待をしているわけでございます。

そういう意味からすると、やはり先ほどのクルーズという話であったり、羽田との関係であったりということになると、先ほど来、玉井先生もおっしゃっていた、一元的な調整の窓口であり、また、それにかかわる金額というものの明記というものが当然必要になってくるなと思って聞いておりました。

もう1点ございまして、実は、どうしても都心に集中してしまいがちなんですね。それは致し方ないことであると思っておりますし、最初の取っかかりは歴史、伝統ある建物というところからスタートして、いずれ芸術文化に触れるということになりますと、一番大きなものは大学の教育機関ではないのかなと思っております。

都内にも当然ながら昔からある大学がございまして、新しく大学を都心のほうで作られたり、あるいは多摩地域に多くの大学がございまして。各大学の中には、200人規模から500人規模、場合によれば本学のように1,000人規模のホールを整備中のところ等もございまして、また、タワーのような建物のほうで

は、上層階においてそういうレセプションができるような空間もございます。そういったものを第2弾として、どちらかという先ほどの定義からいうと2番目の定義でございますね。歴史と伝統ある建物や芸術、文化に触れるという中に、この先の展開として大学の教育機関というものと連携等も含めていただくと、定着した暁に、多摩だとか、そちらのほうにも展開が可能なのかなと思っちょっご提案させていただきました。

#### 【本保座長】

ありがとうございました。

今、大下先生からもワンストップ窓口の必要性のご指摘があったんですが、実は事務方からそういうことを検討しているという話をちょっと聞いたことがあるんですよ。

知事、よろしければ事務方に説明してもらおうと思っております。

#### 【坂本観光部長】

まだ素案の段階ですので、明確なものがあるわけではないんですが、今一定程度考えているのは、やはり全てある一カ所に照会をかけると、ありとあらゆることを情報提供のできるような仕組み、ワンストップサービスですね、いわゆる。そういうような提供体制が何か作れないのかというようなことを、これを今、中で検討しているところでございます。

実際、国内外からの利用者、いろいろと照会をしてきた場合に、一番最初はどういう場所が使えるのか。これは話をしていると、当初検討していた別の場所を実は使ってみたいというようなお話になる場合もあるんですね。その場合、一カ所に聞くと、他は分かりませんというんじゃないやっぱりだめなので、全部知っているところで全部受けとめるという体制が一つ必要になると思っております。

さらに、個々のお値段の問題で、先ほど二条城のところで明確に金額が出ていたんですけども、これは実際、施設を使いたい主催者側のニーズと、これを使うことによって、自らの施設をどうやってショーアップするかという、その需給によって若干このお値段というのは相対で取り決まっていくようなところはあるかと思っております。実際、値段の交渉のネゴシエーターまではできないんですけども、それぞれの与条件というものをうまくつなぎ合わせることによって、そのあたりの交渉は非常にスムーズになっていくような部分があるかと思っております。

さらには、やはり許認可の問題は先ほど何回か出ておりました。やはりここから先は入ってはだめとか、こういうものは見せられません式の話はあるんですが、これは実際に企画展などを見ながら、じゃ飲食ができるのかって、難しい場合はあるんですけども、もともとそういうことを想定しているような企画展があるのであれば、そういったところを優先してご案内をするような、そ



うというようなスキームも作るができると思うんです。

やはりこれは、別々に各施設、各施設で対応しては総合性が発揮できないので、やはりそういったところを一つのところで全てフル装備でご提供のできるような体制、こういったものを何か作れないかということで、ちょっとこれから検討、より具体化していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

それでは、他の委員の方、お願いします。

石井委員。

#### 【石井委員】

大変面白い美術館の取組を今日拝見させていただいたわけですが、私も普段ヨーロッパにおりますので、いろんなところにお招きいただいたり、また私もデザイナーという立場から黒子として演出のほうに携わるという両方の経験を多少しておりますので、ちょっと気づいたところをお話しさせていただきたいと思いますが、例えば経験というところから言いますと、私、子供のときに両親の仕事の関係で海外に行って、子供プログラムみたいなものが MICE にくっついていてというのがたくさんあったんですね。そこで大変楽しいアクティビティがあり、家族ぐるみでそういうところに行くということが、また一つの参加するほうのインセンティブにもなっていた。もう 30 年ぐらい前ですけども、水族館で大きなパーティーがあって、非常にインプレッシブだったのを覚えております。

そういうことをアメリカ、ヨーロッパ、大変前からやっているわけですけども、そういうエンターテインをするというサービス精神みたいな、来た人をおもてなししようという、ワオというのをつくる、そういう感じが、楽しさをやっぱり演出する場所ですので、楽しさを感じるようなこういうプロモーションの資料とかというのは非常に大事だと思うんですね。

お配りいただいた資料、とても写真もきれいですし、よくできていると思うんですけども、人が誰もいない写真ばかりで、ここに人が例えば 200 人とか 500 人とかいるところ、それからユニークベニューのパーティーなんか夜が多いわけですけども、夜どんな雰囲気になるのかというのがちょっと想像しにくいお写真も多いかなというふうに拝見しました。

それから、私パリのいろんな国立の美術館の照明をさせていただくことがしょっちゅうありまして、そのオープニングには大体大きなパーティーがあります。作品が見えるところでディナーがあったり、作品を見てから別室で素晴らしいデコレーションを、そのとき、一晩だけのために皆さん仕込んでやるわけですけども、そういった大体イベントというのは、来て、レセプションパー

ティーをやって、そこで誰かがスピーチをして終わるわけではなくて、鑑賞会があってからレセプションがあったり、カクテルパーティーがあったり、ディナーがあったり、大体2つのイベントをカップリングするということが多いと思うのですが、そういう場合に、一つの場所に行って、例えば浜離宮に行って、お庭が見えるところで食事ができますだけでは、物足りないという事業者の方も多分多いと思うので、何かカップリングするための、その場所でできなかったら、例えばですけれども、水族館に行ってから浜離宮に行くとか、何か両方をつなげるようなこと、1つの場所で2つ以上のことができるということは魅力の一つとして今欠かせない条件になっていると思いますので、その辺についてもご検討いただければ。

その場合、交通手段というのがやはり問題になって、先週も実は隣の芸大美術館でフランスの老舗のブランドの代表者の方が100人近くみえるという大きなイベントがありまして、皆さんフランスからその一晩だけのためにいらっしゃっているような方がたくさん。結局、上野では食事ができないので、都内の他のところに移動するんですが、そこで皆さん、バス2台なわけですね。

これは、もちろん便利ということはそうなんでしょうけれども、ちょっと海外では考えられない、ステータスの方々を、ご夫婦で見えたりしているのをバス2台というのは、ちょっと何かびっくりしました。

例えば、上海でこういうものをやったら全部ハイヤーで送り迎えをすとかという、そういう機関ができてはいるはずなんですが、その辺がまだエクスクルーシブ感をつくるには、もう少し工夫が要って、そのための窓口というのが、そういういろいろなステータスのいろいろなオケーションの方を想定した上での窓口を作っていたきたい。皆さん、移動ならバスでというふうに杓子定規にならないような幅広さというのを持った窓口をぜひ作っていたきたい。

それから、すみません、長くなりまして、設備ですが、私は照明の仕事をしておりますので、何か特別なことをやってくださいと言われると、大体電源がとれるかですとか、電線が引き回せるとか、そういうことをまず見なければいけないのですが、大体電源が余りないんですよみたいなことになる。

そういうところには、ちょっとテーブルを出すぐらいのレセプションを超えたユニークなものを作るためには、やはり設備としての構えがないと、上物を乗せることができません。

やはり皆さん驚くような造作を作ってパーティーをするということがありますので、そのために必要な電気もそうですし、水を使うこともあるし、遮光しなければいけないこともあるし、そういういろいろなことを考えた上での設備の箱というのができていることというのは、やはり事業主としては大事な要素になってきますので、そういうことに関しても、この資料には何も書いていない。電源が取れるかとか、駐車場があるかとか、搬入口の大きさとか、そうい

うデータのなことというのは、使うほうとしては一番知りたいところ。もちろん値段もそうですけれども、そういうところにも気を配った資料を補足的につけていただくのが、これからコーディネーターをつけたり、ワンストップサービスを作る上でも近道になるのではないかというふうに思います。

以上です。

#### 【本保座長】

どうも大変実践的なアドバイスをありがとうございました。

他の方。木村委員、どうぞ。

#### 【木村委員】

今日は最初に事務局のほうから各施設での取組のご説明があったんですけど、それを冒頭伺っていて、どうももやもやしたものがあつたんです。よく分からない。

何なのかなというのを、他の方のお話も聞きながら考えていたんですけども、それぞれの施設、ベニューという言い方をされていますけれども、それが MICE として使われるということをお話しされているんですけども、どうもやっぱり何かフォーカスがないうんですね。総花的というか。

MICE については、さっき JTB の田川さんが M、I、C、E、でかなり性質が違うというお話をされました。そのとおりだと思うんです。

例えば、二条城が今日一つの例として出ました。デービッドさんから詳しい実情のお話もあつたんですけども、では二条城で 2,000 人を集めてコンベンションができるのか。3,000 人を集めたエキジビションをやるのか。多分やらないと思うんです。やり方もありますけれども。

でも、どうも我々の考え方が全て MICE という一つのキーワードで総花的にくくられていて、MICE ができますよ。でも、確かに企業のインセンティブの何か催しとエキジビションは違うんだと思うんですよ。

今日ここで個々のいろいろなベニューのお話が出ましたけれども、それらはまさにユニークであるはずなんですよね。でも、それらのユニークさが何も伝わってこないような感じがしています。

東京都の庭園美術館で閉園後に使えることと、葛西の臨海公園で、水族館でできることは違うはずなんです。

何ができるのかということをやはりそれぞれのベニューのユニークさをきちんと理解した上でのストーリーとかシーンみたいなものを作って伝えようとしないと、MICE ができますよ、あれもこれもそれもどれもできますよというのは、本当に何ができるのかなということが、なかなか伝わりづらくなるということだと思ふんです。

ということで、もう少しフォーカスを絞って、個々のベニューの特徴に合わせた何かコミュニケーションみたいなものがあると、MICE はもっとナイスに

なるんじゃないかなと思います。

**【本保座長】**

ありがとうございました。

どうぞ、伊達委員。

**【伊達委員】**

皆さん、すでにいろいろもうおっしゃられているんですけども、私も、これだけ東京都さんからユニークベニューがリストアップされたということに大変感動しています。これが5年前だと考えられなかったことです。先ほど田川さんがおっしゃった WTC という国際会議が東京で行われていたんですね、2012年に。田川さんが誘致されたんですけども、そのときにぜひユニークベニューとして浜離宮恩賜庭園が使えるといいねという話をラスベガスでしていたんですけども、残念ながら当時は受け入れていただけなかったという記憶があります。そう考えますと、東京都が、ぜひ使ってくださいという方向に変わったことは、大きな前進だと思います。

一方で今日、私も違和感というのもありまして、本日、局ごとに説明されていて、そこまで分けるほどのことなのかと、感想を持ちました。ただこれからワンストップにされるということでは、前向きに進まれているようなので、よいかと思っています。

現実に活用するためには、いろいろなシーンを考えなければいけないと思います。マーケティング的発想を持つ必要があり、また、何よりも数の目標をお持ちになるつもりがあるのだろうかというふうに思いました。

これだけありますからよければ使ってください、使えるような環境にはしましたよ、というのが今の段階だと思うんですけども、やはり各施設でどのぐらい年間に MICE というか、会場として誘致するのかという、数の目標を作り、行政としてもタスクを実行する必要があると思います。目標をもてば、各施設どのぐらい特徴があるのか、その特徴をもっと深掘りしなければいけないとか、もしくは利用者の視点から考えると、どういう活用の仕方をしたいと思うのか考えるはずです。そうすると、先ほどの電源の話もそうですし、例えばこの施設で、外とつながるポテンシャルがあるのですが、私は何を見るかという、窓と床です。外とつながる窓の出入り口を見ていました。窓のサイズは小さいし、段差はある。その状態では、必ずけがをする、オペレーションが不能なので、とても使えないとなるのです。

そうすると、構造的にこの壁を取ってしまってもいいのかなとか、そのぐらいの投資をして、中と外とのつながりを作るつもりがあるであろうかというような視点で見ます。また、当然80人、100人、500人、人数が多くなれば搬出入の問題がありますので、その動線は確保されているのかな？という視点で見えていました。そういったバックの視点でも見る必要があるのです。

一方、浜離宮恩賜庭園ですが、本当に素晴らしいんですけども、もうちょっと深掘りした情報があるのではないかというふうにも思いました。

確か、浜離宮恩賜庭園というところは、海水を入れた池を作っている江戸時代の庭園として残っているものの希少な公園だったと思います。江戸幕府、将軍が作られたわけですが、そういった江戸の特徴というのがあります。いわゆる京都の公家文化で作られた庭園というか、御殿とはまた違う、東京の武家文化、江戸時代に作られたものの特徴というのものが、もっとあるはずです。これを深掘りしていくと、日本人でも時代背景が見え興味深く面白いと思うだろうし、外人の立場でも、なぜ京都、なぜ東京、その違いを選ぶことができ、さらに日本旅行が面白いです、ということになるのではないのでしょうか。

それぞれのロケーションの勝負はあって、勝負をしながら、いろいろな方がいろいろな多様性で選択肢を持つということで、もっと広がりが出てくるのではないかという意味で、結論的にはぜひ目標を、数を、明確に設置していただきたいと思いました。

#### 【本保座長】

ありがとうございました。

珍しく今日最後の発言者になるのですが、アレックスさん。

#### 【カー委員】

残念ながら、私が言いたかったことを皆さん既に言ってしまったんですね。

1 つは、自由にもっと写真が撮れるようにと、私いつも特に美術館の場で言っていますけれども、もうとっくに MET とカルーブルとか上海美術館、ウフィツィ、ボルゲーゼなどなど、どこも自由に写真を撮らせてくれています。

日本の美術館がうるさくて、ここ撮るな、ここは入るな、それに見張りをつけて、お客さんをしょっちゅうとめたり引っ張ったり、お客さんとしては楽しくない。やっぱりインスタグラムなどで載せたい。別にインスタグラム程度の写真が撮られたからといって、美術品は減るわけでもないし、美術館にとってのマイナスはほとんどないんですね。

それでも、ショップの売上が落ちるとか言うんですけども、じゃ、ウフィツィ、ボルゲーゼのショップは何であれだけ本が売れているのでしょうか。自分の好きな写真が撮れたから、ついミケランジェロの全集が欲しいとか、逆に考えるようになってくると思うんです。

その辺は、二条城もそうですけれども、ほとんどの寺などは、美術品だけでなく、建物すら撮ってはいけないとか、うるさい規制ばかりです。つまり学芸員たちとの戦いをずっとやってまいりました。

あと2点だけ話したいと思います。次は価格設定ですね。

私は行政の企画で古民家の宿泊施設の運営に携わっていますが、非常に厳しくきっちりと価格が設定されてしまう。

そのため、例えばもっと売れるときには値上げしたり、逆にプレスのために値下げしたり、融通が効きません。それらは最終的に行政の収入となるわけなんですけれども、損していると思います。

ですから、もう少し民間的に市場のニーズに合わせて、上げたり、下げたり、うまくやっていくといいなと思います。

最後になりますが、例えば浜離宮、水族館、すごくイメージが分かりやすいものだと思います。多分、お客を連れていけば、それだけで自然と感動するものがあると思うんです。ただ、申し訳ないですが、今日視察したこの美術館は少し魅力に欠けています。例えば、お客、私が付き合いのあるインバウンドのV.I.Pとか富裕層の彼らが驚くような場所にぼんと連れていけないといけません。その楽しみを与えるには、ここは少し難しいかもしれません。

それは、だからだめというのではなくて、工夫しないといけない。例えば、小さな話ですけれども、一昨日、うちの亀岡の家でパーティーをしたんですね、ホテルパーティー。私の家は小さな神社の境内にある一軒家なんですけれども、ただ、その家に来てよかったというのではないんですね。玄関へのアプローチからもう全部、花を飾ったり、露地行灯を作ったり、つまり演出によってお客の期待値を高めて、入った時点で、ああこうだったんだという。

あと、さっき石井さんの話にもありましたように、1カ所で終わりというのはだめな時代ですね。ちょうどちでやったときも、途中でちょっとインターミッシヨンの川べりを歩きながらホテルを見て、近くの橋まで歩いて行きました。そのように中身にも流れをつくる必要がありますし、多分、東京都美術館の場合は少し投資しないとイケないでしょうね、伊達さんもおっしゃったように。それはきつとこの入口のところもそうですし、やはり夜は、花を置いたり、照明を置いたり、場合によって踊り、芝居、太鼓とかそういうものをやる場にしても良いかもしれません。そうすると、きつと電源なども必要になってきます。ただ、館内にレストランがある、それだけでは魅力的にならないので、もっと演出的に面白く使えるようなことが必要でしょうね。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

ほぼ時間になりましたので、じゃあ最後にアトキンソンさん。

#### 【アトキンソン委員】

2つなんですけれども、今日実際に見まして、座る場所もない。出口にはありますが、館内にはない。そうすると、美術品はゆっくり見られない。途中でくたくたになったらもう出ていくしかない。解説もほとんどない。実際の学芸員さんの説明、素晴らしかったんですけれども、それは毎回、毎回一緒に回っていると思えませんので、普通の人はやはり感動が薄いというところで、もう少し工夫の必要があるのかなと思ったんですけれども。

もう一つはやはり、今の文化財の話がありましたように、二条城の補足になりますけれども、もともと内部の事務所の決定によって、火も使えない、水が使えない、中庭は火は使えない、台所のたたき以外は使えないということだったんですけれども、結局は委員会によって明らかになったのは、その方針は文化庁の方針でも何でもなかった。結局、水が使えない、御殿の部屋の中に入れないというのは文化庁の縛りではなくて、二条城事務局が勝手に作ったルール。学芸員が勝手に作ったもの。実際に後水尾天皇の行幸の再現を文化スポーツフォーラムのために再現されたときに、内部で池坊の家元が黒書院でお花を生けたとか、大広間でお能もやったとか。そういうのは文化庁のほうから全然オーケーということだったんですけれども、現場を説得する必要がありました。

やはり、東京都も多分同じ禁止問題だと思いますけれども、実際に各施設の利用価値を高めるために、今まで言われてきた利用制限が本当に法律上など決まってあるかないのかということ、細かく細かく追求する価値が高いと思います。学芸員などは現場で自分たちがやっている仕事のやり方を正当化するために、「文化庁は認めない」ということを簡単に言うんですけれども、実際に文化庁に確認すると、「いや、うちはそういうことを絶対に言っていない」ということは多々あります。学芸員がある意味で利用価値の向上を邪魔していることが非常に多くて、それは自分たちの仕事を増やさないためであったり、過剰にリスクをなくすためのものにすぎないので、大きなマイナスを与えていますので、知事のほうでぜひ頑張ってくださいたいところではあります。

以上です。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございます。東京都の学芸員は立派だと思いますけれども、とにかく時間になりますので、今日の議論はここまでにいたしたいと思います。

知事、最後に一言お願いできますでしょうか。

#### 【小池知事】

皆さんの活発なご議論、誠にありがとうございます。

最初にこの冊子を作ったわけではありますが、そもそもまず知ってもらおうということと、あと、よくホテルなどには料金表が後で1枚入っていたりするので、次の段階ではプライスリストというか、そういったプランリストなどもできればというふうに考えております。

それから、私もそもそも原体験として、新宿御苑の真ん前に住んでいたことがあって、4時になると自転車でぴゃーっとおじさんが回って、早く出ていってくださいと言って、とにかく早く閉めるんだからということで、閉めることが目的のような時間帯が出てくるという、もったいない。かたや新宿御苑に匹敵するロンドンのキューガーデンという、あそこはウエディングとか、いろいろ

るやって、最高に活かしているというのは、学ぶべきだと思いました。

それから、シンガポールの官邸、イスタナというところがあるんですけども、あそこでも、国際会議の後はその場でレセプションを開くというのが、とてもプレスティージャスな機会になるわけですね。

ですから、何々をしないというのではなくて、何々をどうやってするという、Don't から Do に変えていくというのをしないと、せっかくの宝物が生かせないというふうに思っております。

今日も幾つか具体的なご提案をいただきました。そういう中で、二条城が安過ぎるんだったらこっちは幾らにするかなとか、具体的にこれから一つ一つのベニューで、何が可能で、何が足りなくてというのも見たいし、それから、例えばコンシェルジュ的な役目というのはどこか担っていただくというのでも必要でしょうし、ワンストップサービスは、まさにそれにつながってくるということでもあります。

今日は実際にこちらの美術館を見ていただきましたけれども、ここもどうやって活用したらいいのか、このあたり発想を大きく転換しながら、仕事が増えると思わないでください。これによって東京がより価値が高くなるということ、全体として目指していきたいと思っております。

浜離宮一つとりましても、隣が築地で、そこをふたつつなげると、大変な、それこそユニークベニューになるなというふうに感じております。

ありがとうございます。

#### 【本保座長】

知事、どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返ししますので、連絡事項等がありましたらお願いします。

#### 【坂本観光部長】

本日、委員の皆様よりご提案を頂戴いたしました内容等につきましては、今年度中に策定を予定しております「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン2018～」こちらのほうに反映をまいります。

また、次回の会議につきましては7月の下旬の開催を予定しておりまして、なにぶん開催までの期間が短いため、現在、既に調整のほうも進めさせていただいておりますので、何とぞよろしく願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

#### 【本保座長】

それでは、以上をもちまして本日の現地視察を終わりたいと思います。ありがとうございます。